

(伊佐郡菱刈町田中)

位置と環境

大口盆地東南部の菱刈町立田中小学校後方の標高224mの小高い丘陵の畑地に位置する。縄文時代早期の遺跡で、早期後半の塞ノ神式土器の標式遺跡である。

調査の経緯

昭和5年頃から故木村幹夫（旧制大口中学校教諭）や故寺師見國（医師）らによって表面採集されて判明した遺跡で、発掘調査は行われていない。

遺構と遺物

表面採集によって判明した遺跡のため、縄文時代の遺構は発見されていないが、木村の報告によると近隣から古墳時代の地下式板石積石室墓1基が確認されている。採集された遺物は、縄文土器の及び弥生土器のほか、磨製石斧、石鏃、石匙、敲石、石皿などの多種の石器がある。

特徴

長年の表採資料をもとに1933年故木村幹夫は「南九州に於ける縄文土器の一形式」と題する論文を発表したが、これが事実上、塞ノ神遺跡を標式とする「塞ノ神式土器」の設定となった。

塞ノ神式土器は、故寺師見國をはじめ多くの研究者によって論究されてきたが、1972年河口貞徳によってA (a,b) 式からB (c,d) 式の4細分され、南九州を代表する縄文時代早期の一型式となった。その後、多くの遺跡から出土するようになり、その形態から貝殻文系と撚糸文系の2系統の系譜の考え方もある。九州一円はおろか中国、四国地方からも発見され、広範な分布をもち独特な特徴を持つ南九州を代表する土器型式の一つである。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県歴史資料センター黎明館に寄託収蔵されている。

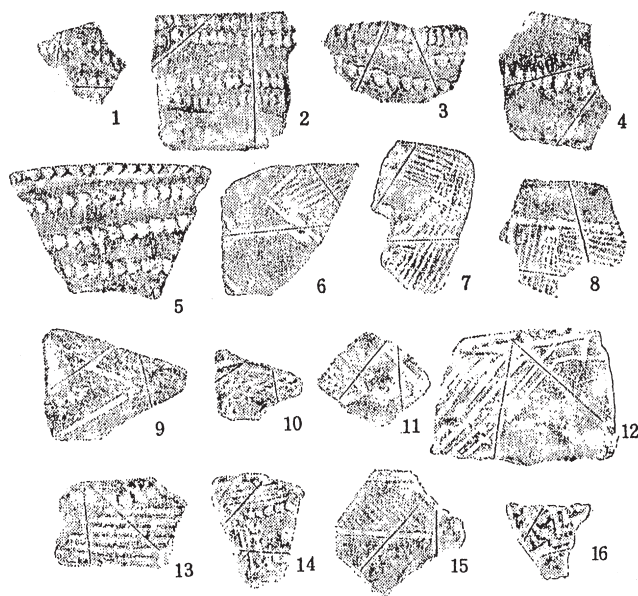
参考文献

木村幹夫1932「鹿児島県大口盆地の遺蹟」『考古学雑誌』第22巻第10号

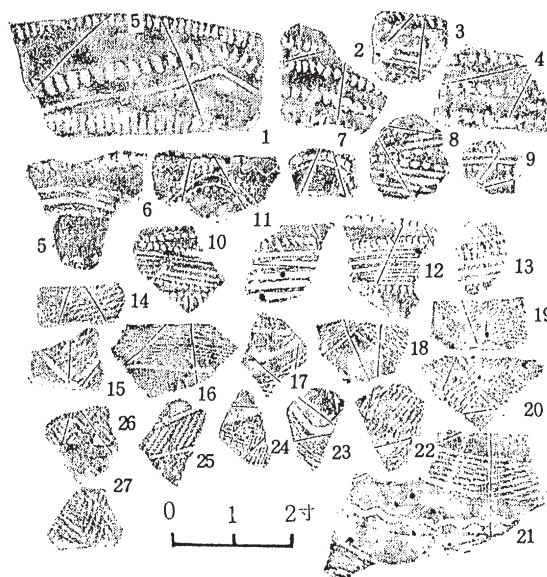
(新東晃一)



第1図 塞ノ神遺跡の位置



第2図 菱刈村塞ノ神遺跡出土土器



第3図 大口町星ヶ峯遺跡出土の塞ノ神式土器